



人事・労務 部下の「やる気力」と「評価」のバランスを学べ

高橋邦名

高橋賞金システム研究所代表取締役

1954年、東京都生まれ。メーカー人事部門を経て、91年多摩労務管理事務所代表。2001年事業経営指導協会を設立し、代表取締役役に就任。08年現社名に変更。人を活かす会社づくりを支援する経営コンサルタントとして活躍。「人が動く」強い会社をつくる」など著書多数。

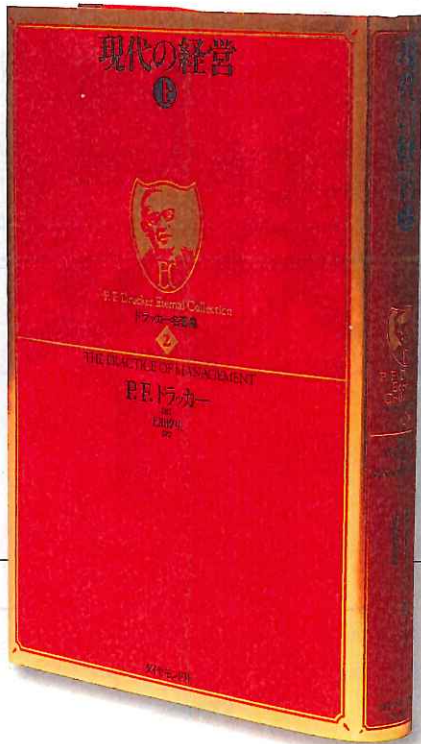
企

業活動の目的は、顧客に
対して製品やサービスを
提供すること。その際に

大切なのが生産性の向上で、限られた経営資源のなかでどれだけ付加価値を生み出せるにかかっている。その力の源泉は何かというところとマンパワーであり、社員一人ひとりが利益貢献できる風土づくりが求められる。組織における「人」の重要性は、ドラッカーが「現代の経営」で「集めた人材をどのように配置し、教育し、貢献させるか」と説いているとおり。その内容は色褪せることがない。企業活動と人をつなぐ人事・労務の基本的なことを学ぶ意味でも、ぜひ手に取りたい書である。

人が働くのは、仕事で何かを成し遂げたいという思い、つまり自己実現の欲求があるから。その対価が給与であるがゆえ、「賃金哲学」をどう設計し、運用していくかということとは、マネジメントにおいて非常に大きなウェイトを占めることになる。人事上の処遇をモチベーションアップにつなげるには、成果と日々の行動を評価することが重要だ。ここでいう行動とは、会社のミッションやCSR（企業の社会的責任）の考え方を理解し、共感して、業務プロセスに反映させているかということ。それができると、社会的存在としての企業の存在意義はぐんと高まる。

「人の重要性」を説くバイブル



現代の経営上下

- P・F・ドラッカー
- 上田淳生訳
- ダイヤモンド社
- 本体価格各1800円＋税

「顧客を創造すること」が企業経営の目的であることを世に知らしめた書で、マネジメントに関する「不易と流行」のエッセンスを語って尽きることがない。たと

えば不易について、企業が意思決定し、行動していくうえでのマネジメントの役割について、①事業マネジメント、②経営管理者のマネジメント、③人と仕事のマネジメント——の3つに分け、顧客が望むものを商品やサービスとして提供するには、それぞれをどう高めていくかがポイントになると説く。現代のマネジャーにも必読の書だ。

頑張る社員への報い方



幹部に年収1000万円を払う会社になろう

- 北見昌朗
- PHP研究所
- 本体価格1500円＋税

「社員あつての会社、社長あつての社長、社長あつての社員」という著者の考え方をベースにしなが、前向きに頑張る社員にどう報いるかについて解説する。給与改定の行い方、諸手当の払い方、人事評価の昇給・賞与への反映の仕方などを、豊富な指導経験をもとに説明していて、一般のビジネスマンが手にしてもわかりやすい。

企業の社会的使命を考える



CSR時代のミッション・マネジメント

- 高橋邦名
- 泉文堂
- 本体価格2200円＋税

不祥事が表面化するたびに問われ続けている企業のCSR。問題を起こす企業は、ミッションの共有が欠如していることが少なくない。そこで著者は「企業の原点である社会的使命を見つめ直す作業の大切さ」を説く。さらに、ミッションを共有し、社員と企業が相互に成長していく理想的な経営の方向性をも示してくれる。

岡村繁雄＝構成 加々美義人＝撮影